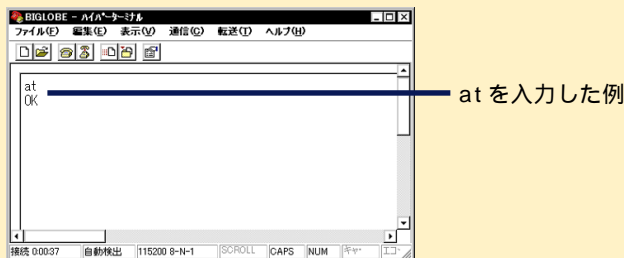
ATコマンド解説

ATコマンドとは

ATコマンドとは、Atermの便利な機能を使うときに、Atermに設定を命令するためのコマンドです。米国Hayes社が自社用モデムのために開発、使用した非同期端末用の自動発着信方式の一種で、コマンドの大部分が“AT”で始まるところからこう呼ばれています。
AtermはこのATコマンドに準拠し、さらに拡張コマンドの一部や独自のコマンドをサポートしています。

ATコマンドを使うためには

ATコマンドを使うためには、ターミナルモードで動作する通信ソフトウェアが必要です。WindowsMe/Windows98/Windows95/Windows2000では標準で添付されているハイパーターミナルを使用します。
次の画面が表示されたら、ATコマンドを入力して[リターン]キーを押してください。ATコマンドが実行されます。

Macintoshでは、ターミナルモードで動作する通信ソフトウェアは標準添付されていません。必要な方はATコマンドが使える通信ソフトウェアを雑誌やオンラインで入手するか、購入してください。

コマンド一覧へ　　次ページへ

ATコマンドの使い方

ATコマンドは「コマンド」と「Sレジスタ」ならびに「リザルトコード」から成り立っています。
次ページから、「コマンド」と「Sレジスタ」ならびに「リザルトコード」について説明します。
「コマンド」は、パソコンからターミナルアダプタに対し動作を指示するときに使用します。
ターミナルアダプタからパソコンに対するコマンド実行結果の報告や着信の報告等を「リザルトコード」といいます。
また、コマンドの種類によっては、「Sレジスタ」の内容を参照するものがあります。「Sレジスタ」の内容もまた、ATコマンドにより書き換えることができます。

ご注意!

Atermはパソコンの「ER信号ON」で通信可能になります。
ER信号をONできないパソコンの場合は、らくらくアシスタントやAT&Dコマンドで「ER信号を常時ONとみなす」に設定してください。

コマンド入力形式

ATコマンドは次の形式で入力します。

A	T	コマンド	CR	LF

- 文字は半角(英数字)を使用してください
- ATは、atでもかまいません。AtやaTは使用できません。
- コマンドは、最大184文字まで入力できます。184文字を超えた場合はERRORをパソコンに返します。
- 複数のコマンドを連続して入力することもできます。
- コマンドの中にはコマンドの後ろにパラメータを必要とするものがあります。このパラメータが省略された場合は、“0”とみなします。
- CR(改行キーやreturnキー)は復帰文字でありコマンドの区切りを示します。復帰文字はS3レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。
- LFは省略できます。
- LFは改行文字です。改行文字はS4レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。
- コードはアスキーを使用します。
- Atermは、ATコマンドからパソコンのデータポート速度・データビット長・パリティを自動的に判別してそれに合わせます。

Sレジスタ

Sレジスタは、自動発着信の動作を規定する各種パラメータ(RING回数、時間、文字)を格納するレジスタです。Sレジスタの内容はATSnコマンドで変更できますが、通常は初期値で使用します。

リザルトコード

リザルトコードはVコマンドの設定に対応して、次のいずれかの形式で表示されます。

(1)英語表示のリザルトコード

- CR(改行キーやreturnキー)は復帰文字で、コマンドの区切りを示します。復帰文字はS3レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。
- LFは改行文字です。改行文字はS4レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。
- コードはアスキーを使用します。

(2)数字表示によるリザルトコード

リザルトコードが数字表示になっていると通信できない場合があります。

- CRは復帰文字で、コマンドの区切りを示します。復帰文字はS3レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。復帰文字を変更すると通信できない場合があります。
- コードはアスキーを使用します。

コマンド一覧

○のついたパラメータの内容は、セーブコマンド（AT＄S）を実行すると電源を切っても保持されます。

	コマンド	機能概要	初期値
	A	着信応答	–
	D	ダイヤル発信	–
○	E	エコー指定	1
	H	切断	–
	I	装置コード、装置メーカの表示	–
	N	回線速度の設定	0
	O	データ通信中のコマンドモードからデータ通信モードへ戻す	–
○	Q	リザルトコードの有無の設定	0
○	V	リザルトコードの返しかたの設定	1
○	W	リザルトコードのRING表示の設定	0
○	X	リザルトコードセット設定	3
	Z	設定の初期化	–
	ZJ	シリアルポートの設定の初期化	–
	ZK	USBポートの設定の初期化	–
○	/S	サブアドレスセパレータ設定	/

	コマンド	機能概要	初期値
○	/SJ	シリアルポートのサブアドレスセパレータ設定	/
○	/SK	USBポートのサブアドレスセパレータの設定	/
○	&A	オートボー検出の設定	0
○	&C	CD信号制御の設定	1
○	&CJ	シリアルポートのCD信号制御の設定	1
○	&CK	USBポートのCD信号制御の設定	1
○	&D	ER信号制御の設定	0
○	&DJ	シリアルポートのER信号制御の設定	0
○	&DK	USBポートのER信号制御の設定	0
	&H	短縮番号の表示	–
○	&K	フロー制御方式の設定	3
○	&L	USBポートの接続状態ランプ表示設定	1
○	&S	DR信号制御の設定	0
○	&SJ	シリアルポートのDR信号制御の設定	0
○	&SK	USBポートのDR信号制御の設定	0
○	&Z	短縮番号の登録	–
	#C	通信料金、切断理由コード等の表示	–

○のついたパラメータの内容は、セーブコマンド（AT＄S）を実行すると電源を切っても保持されます。

コマンド	機能概要	初期値
#CJ	シリアルポートの通信料金、切断理由コード等の表示	－
#CK	USBポートの通信料金、切断理由コード等の表示	－
#H	発信者通知番号の表示	－
#HA	電話Aポート用発信者通知番号の表示	－
#HB	電話Bポート用発信者通知番号の表示	－
#HC	電話Cポート用発信者通知番号の表示	－
#HJ	シリアルポートの通知番号の表示	－
#HK	USBポートの通知番号の表示	－
○ #M	PIAFSの設定と表示	1
#R	着信拒否	－
○ #Z	発信者通知番号の登録	－
○ #ZA	電話Aポート用発信者通知番号の登録	－
○ #ZB	電話Bポート用発信者通知番号の登録	－
○ #ZC	電話Cポート用発信者通知番号の登録	－
○ #ZJ	シリアルポートの発信者通知番号の登録	－
○ #ZK	USBポートの発信者通知番号の登録	－
＊H	着信番号・内線指定番号の割り当て表示	－
○＊PCA	電話Aポートの発信用 i・ナンバー情報の設定	－
○＊PCB	電話Bポートの発信用 i・ナンバー情報の設定	－
○＊PCC	電話Cポートの発信用 i・ナンバー情報の設定	－
○＊PCN	発信用 i・ナンバー情報の設定	－
○＊PCNJ	シリアルポートの発信用 i・ナンバー情報の設定	－
○＊PCNK	USBポートの発信用 i・ナンバー情報の設定	－
○＊PN	i・ナンバー情報の電話番号・内線指定番号設定	－
○＊PRA	電話Aポートの着信用 i・ナンバー情報設定	－
○＊PRB	電話Bポートの着信用 i・ナンバー情報設定	－
○＊PRC	電話Cポートの着信用 i・ナンバー情報設定	－
○＊PRN	着信用 i・ナンバー情報設定	－
○＊PRNJ	シリアルポートの着信用 i・ナンバー情報設定	－
○＊PRNK	USBポートの着信用 i・ナンバー情報設定	－

注：初期値については各コマンドの説明をご覧ください。

コマンド一覧

○のついたパラメータの内容は、セーブコマンド（AT＄S）を実行すると電源を切っても保持されます。

	コマンド	機能概要	初期値
○	＊PX1	i･ナンバーの使用設定	0
	＊P?	i･ナンバーの設定表示	－
○	＊Z	着信番号･内線指定番号の登録	－
○	＊ZA	電話Aポート着信番号･内線指定番号の割り当て	－
○	＊ZB	電話Bポート着信番号･内線指定番号の割り当て	－
○	＊ZC	電話Cポート着信番号･内線指定番号の割り当て	－
○	＊ZD	着信番号の割り当て	－
○	＊ZDJ	シリアルポート着信番号の割り当て	－
○	＊ZDK	USBポート着信番号の割り当て	－
○	\C	累積通信料金の表示と初期化	－
○	\D	UUIメール着信時のランプ表示の設定と表示	注
	\L	最新発着信情報表示	－
○	\M	電子メール着信時のランプ表示の設定と表示	注
○	\Q	フロー制御方式の設定	3
	\S	データポート設定の表示	－
	\SJ	シリアルポート設定の表示	－
	\SK	USBポート設定の表示	－
○	＄A	電話Aポートの設定と表示	注
○	＄B	電話Bポートの設定と表示	注
○	＄C	電話Cポートの設定と表示	注
○	＄D	アナログポートの共通設定と表示	注
	＄F	データポートの共通設定と表示	
	＄H	アナログポートの着信転送の設定と表示	－
○	＄M	128kbpsマルチリンクPPP通信の設定と表示	注
○	＄MJ	シリアルポート128kbpsマルチリンクPPP通信の設定と表示	注
○	＄MK	USBポート128kbpsマルチリンクPPP通信の設定と表示	注
○	＄N	データポートの制御に関する設定と表示	注
○	＄NJ	シリアルポートの制御に関する設定と表示	注
○	＄NK	USBポートの制御に関する設定と表示	注
	＄S	パラメータの保存	－

注：初期値については各コマンドの説明をご覧ください。

コマンド一覧

○のついたパラメータの内容は、セーブコマンド（AT＄S）を実行すると電源を切っても保持されます。

	コマンド	機能概要	初期値
○	＄X	アナログポートの着信転送の設定	2，0
○	＄Y	アナログポートの着信転送先の電話番号の登録	— —
○	＄YM	電話番号着信転送(遊遊メール)の転送先メールアドレスの登録	—
○	＄Z	アナログポートの着信転送元電話番号の登録	— —
○	%C	PIAFSデータ通信時のデータ圧縮の設定	2
	S	Sレジスタポインタの設定	0
	?	Sレジスタポインタの示すレジスタ内容表示	—
○	=	Sレジスタポインタの示すレジスタ内容変更	—
	+++	エスケープコマンド	—
	!C	CTI発信キャンセル	—
	!D	CTI発信	—
	!H	マイプライベート着信用電話帳の登録情報の表示	—
	!SH	疑似識別着信(セキュリティ+選択キャッチホン)用電話帳の登録情報の表示	—

	コマンド	機能概要	初期値
○	!SZ	疑似識別着信(セキュリティ+選択キャッチホン)用電話番号の登録	—
○	!UC	迷惑電話防止用電話帳の登録電話番号の削除	—
	!UH	迷惑電話防止用電話帳の登録情報の表示	—
○	!US	迷惑電話防止用電話番号の登録	—
	!VH	INSボイスワープ設定用電話番号の表示	—
○	!VZ	INSボイスワープ設定用電話番号の登録	—
	!WH	疑似なりわけの相手の電話番号の表示	—
○	!WZ	疑似なりわけの相手の電話番号の登録	—
○	!X	マイプライベート着信の設定	0
○	!Z	マイプライベート着信の相手電話番号と着信ポートの設定	—

注：初期値については各コマンドの説明をご覧ください。

先頭ページへ　項の先頭へ　前ページへ　次ページへ

A

機能:　「RING」が表示されているときに本コマンドを入力して相手と通信中にします。
書式:　ATA
パラメータ:　なし
入力例:　ATA

D

機能:　発信して相手を呼び出します。

書式:　ATD<パラメータ1></パラメータ2><パラメータ3>

パラメータ:
<パラメータ1>　相手電話番号(最大32桁)

S=0~9	:	短縮・識別着信番号へ発信する
\	:	再発信する
00	:	USBポートへ内線発信する
02	:	シリアルポートへ内線発信する

<パラメータ2>　相手サブアドレス(最大19桁)

<パラメータ3>　[ユーザ・ユーザデータ

;	:	コマンドモードへ入ります。発信するときはOコマンドを入力する
CB	:	スティルスコールバックの発信をする
PD	:	PIAFS 64K(PIAFS 2.0)で発信する
PF	:	PIAFS 32K(PIAFS 2.0)で発信する
PP	:	PIAFS 64K(PIAFS 2.1)で発信する

入力例:
ATD0123-45-6789 [ABCD
ATDS=0
ATD0123-45-6789CB

補足:
<パラメータ1>:
- 相手電話番号には0~9の数字が使用できます。その他の文字は使用しても無視します。
- 00~02指定時は<パラメータ2>、<パラメータ3>の指定は無効です。

<パラメータ2>：

- 相手サブアドレスには0～9の数字が使用できます。また、/以降が省略された場合は相手サブアドレス指定なしとみなします。
- /は、/Sコマンドで変更できます。

<パラメータ3>：

- ユーザ・ユーザデータは最大128桁で0～9の数字, ＊, #, 英字が使用できます。
  ユーザ・ユーザデータの前には [を入れてください。
- 「;」はユーザ・ユーザデータ使用時は、使用できません。
- CB、PD、PF、PPはどれか1つのみ指定してください。cb、pd、pf、ppでもかまいません。
- CB指定時はあわせて発信側・着信側共にスティルスコールバックを使用する（＄N10＝1）にしてください。また、発信側、着信側ともにフロー制御の設定をしてください。
- CB指定時の相手サブアドレスは最大15桁に制限されます。
- CB、PD、PF、PP指定発信の再発信（リダイヤル）はできません。
- CB、PD、PF、PPは必ず最後につけてください。
- PD、PF、PP使用時はPIAFS設定されていなくてもPIAFS発信します。
  通信終了後は元の設定に戻ります。

E

機能:　エコーバックするか否かを指定します。

書式:　ATE<パラメータ1>

パラメータ:　<パラメータ1>　0　:　エコーバックしない
　1　:　エコーバックする(初期値)

入力例:　ATE0

H

機能:　通信を切断します。

書式:　ATH

パラメータ:　なし

入力例:　ATH

補足:　最初にエスケープコマンド(+++)を入力し、コマンドモードにしてから本コマンドを入力します。

I

機能:　装置コード、装置メーカを表示します。

書式:　ATI<パラメータ1>

パラメータ:　<パラメータ1>　0　:　装置コード(ATコマンドのバージョン=960)を表示
　3　:　ファームウェアのバージョンを表示
　4　:　装置メーカ(AtermIT NEC Corporation)を表示
　98　:　装置名称を表示

入力例:　ATI4

N

機能:　回線速度を設定します。

書式:　ATN<パラメータ1>

パラメータ:　<パラメータ1>

0	:	パソコン側通信ポートの速度と同じ(初期値)
1	:	1,200bps
2	:	2,400bps
3	:	4,800bps
4	:	9,600bps
5	:	14,400bps
6	:	19,200bps
7	:	28,800bps
8	:	38,400bps
9	:	57,600bps

入力例:　ATN4

補足:

- フロー制御方式もあわせて設定してください。通常RS-CSフロー制御を選択します。
- Dコマンドの前に入力してください。
- 通信相手が異速度通信できないターミナルアダプタのときに相手のシリアルポート速度を指定します。
- 非同期通信時に使用できます。
- <パラメータ1>を0とし、パソコン側通信ポートの速度を115,200bpsや230,400bpsとしたときは、回線速度は57,600bpsとなります。

O

機能: エスケープコマンド(+++)を入力した後にコマンドモードからデータ通信モードに戻します。
書式: ATO
パラメータ: なし
入力例: ATO

Q

機能: リザルトコードを返すか返さないかを設定します。
書式: ATQ＜パラメータ1＞
パラメータ: ＜パラメータ1＞ 0 : リザルトコードを返す(初期値)
1 : リザルトコードを返さない
入力例: ATQ0

V

機能: リザルトコードを数値で返すか英数文字で返すかを設定します。
書式: ATV＜パラメータ1＞
パラメータ: ＜パラメータ1＞ 0 : リザルトコードを数値で返す
1 : リザルトコードを英数文字で返す(初期値)
入力例: ATV0

W

機能:　リザルトコードRINGの表示のしかたを設定します。

書式:　ATW<パラメータ1>

パラメータ:　<パラメータ1>
- 0 : RINGのみを返す(初期値)
- 2 : RINGの後に続けて相手電話番号、相手サブアドレス、ユーザ、ユーザデータを表示する

入力例:　ATW2

補足:
- 相手電話番号と相手サブアドレスはサブアドレスセパレータで区切られます。
- サブアドレスセパレータ以降が省略された場合は相手サブアドレス指定なしとみなします。
- 相手電話番号または相手サブアドレスとユーザ、ユーザデータの区切りは [です。

X

機能:　リザルトコードセットを設定します。

書式:　ATX<パラメータ1>

パラメータ:　<パラメータ1>
- 0 : ベーシックセット
- 1 : 拡張セット1
- 2 : 拡張セット2
- 3 : 拡張セット3(初期値)
- 4 : 拡張セット4

入力例:　ATX0

リザルトコードセットの一覧を示します。

X（続き）

数字	英語	ベーシック	拡張1	拡張2	拡張3	拡張4
0	OK	○	○	○	○	○
1	CONNECT	○	−	−	−	−
2	RING	○	○	○	○	○
3	NO CARRIER	○	○	○	○	○
4	ERROR	○	○	○	○	○
5	CONNECT1200	−	○	○	○	○
7	BUSY	−	−	−	○	○
10	CONNECT2400	−	○	○	○	○
11	CONNECT4800	−	○	○	○	○
12	CONNECT9600	−	○	○	○	○
13	CONNECT14400	−	○	○	○	○
14	CONNECT19200	−	○	○	○	○
18	CONNECT57600	−	○	○	○	○
19	CONNECT64000	−	○	○	○	○
21	CONNECT32000	−	○	○	○	○
26	CONNECT28800	−	○	○	○	○
28	CONNECT38400	−	○	○	○	○
67	COMPRESSION:V.42bis	−	○	○	○	○
69	COMPRESSION:NONE	−	○	○	○	○
82	PROTOCOL:PIAFS	−	○	○	○	○

Z

機能：	設定を初期化します。			
書式：	ATZ<パラメータ1>			
パラメータ：	<パラメータ1>	0	：	コマンドを出したポートの設定が、＄Sコマンドで保存した内容に戻る
		1	：	コマンドを出したデータポート（シリアルポート/USBポート）とアナログポート（電話Aポート/電話Bポート/電話Cポート）の設定が、購入時の状態に戻る
		10	：	データポートの設定が、＄Sコマンドで設定した内容に戻る
		11	：	データポートとアナログポートの設定が、購入時の状態に戻る
		98	：	ハードウェアリセットをかける。すべての設定が購入時の状態に戻る
		99	：	ソフトウェアリセットをかける。すべての設定が、＄Sコマンドで保存した内容に戻る
入力例：	ATZ11			

補足：

- <パラメータ1>で1,11のいずれかを指定した場合、以下のデータは初期化されません。
  短縮番号・発信者通知電話番号・自己サブアドレス・着信電話番号・内線指定番号・累積通話料金・着信転送先アドレス・着信転送元アドレス・受話音量
- アナログポートの設定は<パラメータ1>で0・10・99のいずれかが指定されると、すべてバックアップされている内容に戻ります。
- アナログポートの設定は<パラメータ1>で1・11・98のいずれかが指定されると、初期化され購入時の状態に戻ります。
- データポートで共通に使用しているコマンド（￥D1、￥M1、＄F2、＄F3）は、それぞれの初期値に戻ります。
- パラメータ98・99はいつでも実行可能です。

ZJ

機能：　シリアルポートの設定を初期化します。

書式：　ATZJ＜パラメータ１＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　0　：　シリアルポートの設定が、＄Sコマンドで保存した内容に戻る
　　　　　　　　　　　　　　　1　：　シリアルポートの設定が、購入時の状態に戻る

入力例：　ATZJ0

ZK

機能：　USBポートの設定を初期化します。

書式：　ATZK＜パラメータ１＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　0　：　USBポートの設定が、＄Sコマンドで保存した内容に戻る
　　　　　　　　　　　　　　　1　：　USBポートの設定が、購入時の状態に戻る

入力例：　ATZK1

/S

機能:　サブアドレスセパレータの表示・設定を行います。

書式:　AT/S<パラメータ1><=パラメータ2>

パラメータ:　<パラメータ1><=パラメータ2>

0　:　現在のサブアドレスセパレータの表示

1　:　サブアドレスセパレータの設定

1=/(初期値)

1=#

1=*

入力例:　AT/S1=#

補足:
- 本コマンドを出したデータポート(シリアルポート/USBポート)の設定のみ変更されます。
- 本コマンドでサブアドレスセパレータを変更した場合は、&Z、#Z、#ZJ、#ZK、$Z、Dコマンドで使用するサブアドレスセパレータも変更してください。
- アナログポートで使用するセパレータ(*)は固定です。

/SJ

機能:　シリアルポートのサブアドレスセパレータの表示・設定を行います。

書式:　AT/SJ<パラメータ1><=パラメータ2>

パラメータ:　/Sコマンドと同じ

入力例:　AT/SJ1=*

補足:　/Sコマンドの補足を参照してください。

/SK

機能：　USBポートのサブアドレスセパレータの表示・設定を行います。

書式：　AT/SK＜パラメータ1＞＜=パラメータ2＞

パラメータ：　/Sコマンドと同じ

入力例：　AT/SK1=/

補足：　/Sコマンドの補足を参照してください。

&A

機能：　オートボー検出の設定を行います。

書式：　AT&A＜パラメータ1＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞

- ?：　設定内容を表示します。
- 0　：　常にオートボーを検出します。（初期値）
- 1　：　ER信号 OFF/ON後に、再度オートボーを検出します。
- 2　：　オートボーを検出しません。

入力例：　AT&A1

補足：　通常は初期値のままお使いください。AT&AZを設定するとらくらくアシスタントやらくらくバージョンアップが使用できなくなります。

&C

機能:　CD信号制御の設定を行います。

書式:　AT&C＜パラメータ1＞

パラメータ:　＜パラメータ1＞　0　:　ER-ONの時には常にCD-ON
　　　　　　　　　　　　　　　1　:　通信中は常にCD-ON（初期値）

入力例:　AT&C0

補足:　本コマンドを出したデータポート（シリアルポート/USBポート）の設定のみ変更されます。

&CJ

機能:　シリアルポートのCD信号制御の設定を行います。

書式:　AT&CJ＜パラメータ1＞

パラメータ:　&Cコマンドと同じ

入力例:　AT&CJ0

&CK

機能:　USBポートのCD信号制御の設定を行います。

書式:　AT&CK＜パラメータ1＞

パラメータ:　&Cコマンドと同じ

入力例:　AT&CK1

&D

機能:　ER信号制御の設定を行います。

書式:　AT&D＜パラメータ1＞

パラメータ:　＜パラメータ1＞

0	:	パソコンのER信号をみる(初期値)
1	:	ER信号を常時ONとみなす
2	:	通信中のみパソコンのER信号をみる

入力例:　AT&D1

補足:　本コマンドを出したデータポート(シリアルポート/USBポート)の設定のみ変更されます。

&DJ

機能:　シリアルポートのER信号制御の設定を行います。

書式:　AT&DJ＜パラメータ1＞

パラメータ:　&Dコマンドと同じ

入力例:　AT&DJ0

&DK

機能:　USBポートのER信号制御の設定を行います。

書式:　AT&DK＜パラメータ1＞

パラメータ:　&Dコマンドと同じ

入力例:　AT&DK0

&H

機能:	短縮番号を表示します。			
書式:	AT&H<パラメータ1>			
パラメータ:	<パラメータ1>	0～9	:	指定した短縮番号の設定を表示
		なし	:	すべての短縮番号の設定を表示
入力例:	AT&H			

&K

機能:	フロー制御方式を設定します。			
書式:	AT&K<パラメータ1>			
パラメータ:	<パラメータ1>	0または5	:	フロー制御しない
		3または6	:	RS-CSフロー制御(初期値は3)
		4	:	XON/XOFFフロー制御
入力例:	AT&K4			
補足:	\Qコマンドと同じ機能です。			

&L

機能:　USBポートの接続状態ランプ表示を設定します。

書式:　AT&L＜パラメータ1＞＜=パラメータ2＞

パラメータ:　＜パラメータ1＞＜=パラメータ2＞

- 0　:　設定内容の表示
- 1　:　USBポート接続状態のランプ表示設定
  - 1=0　:　ランプ表示しない
  - 1=1　:　ランプ表示する(初期値)

入力例:　AT&L1=0

&S

機能:　DR信号制御の設定を行います。

書式:　AT&S＜パラメータ1＞

パラメータ:　＜パラメータ1＞
- 0　:　ER-ON時には常にDR-ON(初期値)
- 1　:　通信中は常にDR-ON

入力例:　AT&S1

補足:　本コマンドを出したデータポート(シリアルポート/USBポート)の設定のみ変更されます。

&SJ

機能:　シリアルポートのDR信号制御の設定を行います。

書式:　AT&SJ＜パラメータ1＞

パラメータ:　&Sコマンドと同じ

入力例:　AT&SJ1

&SK

機能：	USBポートのDR信号制御の設定を行います。
書式：	AT&SK＜パラメータ1＞
パラメータ：	&Sコマンドと同じ
入力例：	AT&SK0

&Z

機能：	短縮番号を登録します。	
書式：	AT&Z＜パラメータ0＞＜＝パラメータ1＞＜/パラメータ2＞	
パラメータ：	＜パラメータ0＞	短縮番号
	＜パラメータ1＞	相手電話番号（最大32桁）
	＜パラメータ2＞	相手サブアドレス（最大19桁）
入力例：	AT&Z0=012345678/910	

補足：

- 短縮番号には0〜9の数字を入力します。
- 相手電話番号には0〜9の数字が使用できます。
- 相手サブアドレスには0〜9の数字が使用できます。また、/以降が省略された場合は相手サブアドレス指定なしとみなします。
- /は/Sコマンドで変更できます。
- 末尾にCBをつけたスティルスコールバックを行う電話番号は登録できません。

#C

機能：　通信料金、切断理由コード等を表示します。
書式：　AT#C
パラメータ：　なし
入力例：　AT#C
補足：　① 本コマンドを出したデータポート（シリアルポート/USBポート）の設定のみ変更されます。
② CAUSE＝#の後に切断理由コードを表示します。
③ SOURCE＝の後に生成源を表示します。
④ CHARGE：\の後に通信料金を表示します。
⑤ データがない場合は、BUFFER EMPTYを表示します。

#CJ

機能：　シリアルポートの通信料金、切断理由コード等を表示します。
書式：　AT#CJ
パラメータ：　なし
入力例：　AT#CJ
補足：　#Cコマンドの補足の②～⑤項を参照してください。

#CK

機能：　USBポートの通信料金、切断理由コード等を表示します。
書式：　AT#CK
パラメータ：　なし
入力例：　AT#CK
補足：　#Cコマンドの補足の②～⑤項を参照してください。

#H

機能:　発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を表示します。
書式:　AT#H
パラメータ:　なし
入力例:　AT#H
補足:　① 本コマンドを出したデータポート(シリアルポート/USBポート)の設定のみ変更されます。
② 通知番号と自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
③ 登録されていない場合、BUFFER EMPTYと表示します。
④ 本コマンドは、「i・ナンバーを使用しない」場合に有効です。

#HA

機能:　電話Aポートの発信者通知番号(通知番号、自己サブアドレス)を表示します。
書式:　AT#HA
パラメータ:　なし
入力例:　AT#HA
補足:　#Hコマンドの補足の②～④項を参照してください。

#HB

機能:　電話Bポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を表示します。
書式:　AT#HB
パラメータ:　なし
入力例:　AT#HB
補足:　#Hコマンドの補足の②～④項を参照してください。

#HC

機能:　電話Cポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を表示します。
書式:　AT#HC
パラメータ:　なし
入力例:　AT#HC
補足:　#Hコマンドの補足の②～④項を参照してください。

#HJ

機能:　シリアルポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を表示します。
書式:　AT#HJ
パラメータ:　なし
入力例:　AT#HJ
補足:　#Hコマンドの補足の②～④項を参照してください。

#HK

機能:　USBポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を表示します。
書式:　AT#HK
パラメータ:　なし
入力例:　AT#HK
補足:　#Hコマンドの補足の②～④項を参照してください。

#M

機能:　PIAFSの設定と表示を行います。

書式:　AT#M＝<パラメータ1>

パラメータ:　<パラメータ1>　0　:　PIAFS通信する

1　:　非同期通信する（初期値）

?:　設定内容の表示

入力例:　AT#M＝0

補足:　#Mコマンドでの設定は＄N1コマンドでもできます。どちらかを設定すれば有効になります。

#R

機能:　着信中に入力することにより、着信を拒否します。

書式:　AT#R

パラメータ:　なし

入力例:　AT#R

＃Z

機能：	発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を登録します。
書式：	AT#Z<パラメータ1></パラメータ2>
パラメータ：	<パラメータ1>　　通知番号
	<パラメータ2>　　自己サブアドレス
入力例：	AT#Z012345678/910
補足：	① 本コマンドを出したデータポート(シリアルポート/USBポート)の設定のみ変更されます。
	② /は/Sコマンドで変更できます。
	③ 通知番号は最大32桁で0～9の数字が使用できます。
	④ 自己サブアドレスは最大19桁で0～9の数字が使用できます。
	⑤ 本コマンドは､｢i･ナンバーを使用しない｣場合に有効です。

＃ZA

機能：	電話Aポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を登録します。
書式：	AT#ZA<パラメータ1></パラメータ2>
パラメータ：	<パラメータ1>　　通知番号
	<パラメータ2>　　自己サブアドレス
入力例：	AT#ZA012345678/2222
補足：	＃Zコマンドの補足の③～⑤項を参照してください。

#ZB

機能：　電話Bポートの発信者通知番号（通知番号と自己サブアドレス）を登録します。
書式：　AT#ZB＜パラメータ1＞＜/パラメータ2＞
パラメータ：　＜パラメータ1＞　通知番号
　＜パラメータ2＞　自己サブアドレス
入力例：　AT#ZB012345678/3333
補足：　#Zコマンドの補足の③～⑤項を参照してください。

#ZC

機能：　電話Cポートの発信者通知番号（通知番号と自己サブアドレス）を登録します。
書式：　AT#ZC＜パラメータ1＞＜/パラメータ2＞
パラメータ：　＜パラメータ1＞　通知番号
　＜パラメータ2＞　自己サブアドレス
入力例：　AT#ZC012345678/4444
補足：　#Zコマンドの補足の③～⑤項を参照してください。

#ZJ

機能：　シリアルポートの発信者通知番号（通知番号と自己サブアドレス）を登録します。
書式：　AT#ZJ＜パラメータ1＞＜/パラメータ2＞
パラメータ：　#Zコマンドと同じ
入力例：　AT#ZJ12345678/5555
補足：　#Zコマンドの補足の②～⑤項を参照してください。

#ZK

機能：　USBポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を登録します。

書式：　AT#ZK＜パラメータ1＞＜/パラメータ2＞

パラメータ：　#Zコマンドと同じ

入力例：　AT#ZK567890/123

補足：　#Zコマンドの補足の②～⑤項を参照してください。

＊H

機能：　着信番号と内線指定番号の割り当てを表示します。

書式：　AT＊H

パラメータ：　なし

入力例：　AT＊H

補足：　本コマンドは、「i･ナンバーを使用しない」場合に有効です。

＊PCA

機能：　電話Aポートに、発信用 i･ナンバー情報を設定します。

書式：　AT＊PCA＝＜パラメータ1＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　　i･ナンバー情報(1、2または3)

入力例：　AT＊PCA=1

補足：　初期値は1です。

先頭ページへ　コマンド一覧へ　前ページへ　次ページへ

＊PCB

機能：　電話Bポートに、発信用 i・ナンバー情報を設定します。

書式：　AT＊PCB＝＜パラメータ1＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　i・ナンバー情報（1、2または3）

入力例：　AT＊PCB=2

補足：　初期値は2です。

＊PCC

機能：　電話Cポートに、発信用 i・ナンバー情報を設定します。

書式：　AT＊PCC＝＜パラメータ1＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　i・ナンバー情報（1、2または3）

入力例：　AT＊PCC=3

補足：　初期値は3です。

＊PCN

機能：　発信用 i・ナンバー情報を設定します。

書式：　AT＊PCN＝＜パラメータ1＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　i・ナンバー情報（1、2または3）

入力例：　AT＊PCN=1

補足：
- 初期値は1です。
- 本コマンドを出したデータポート（シリアルポート/USBポート）の設定のみ変更されます。

＊PCNJ

機能：　シリアルポートに、発信用 i・ナンバー情報を設定します。

書式：　AT＊PCNJ=＜パラメータ1＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　i・ナンバー情報（1、2または3）

入力例：　AT＊PCNJ=1

補足：　初期値は1です。

＊PCNK

機能：　USBポートに、発信用 i・ナンバー情報を設定します。

書式：　AT＊PCNK=＜パラメータ1＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　i・ナンバー情報（1、2または3）

入力例：　AT＊PCNK=1

補足：　初期値は1です。

＊PN

機能：　i・ナンバー情報の電話番号・内線指定番号を設定します。

書式：　AT＊PN＜パラメータ1＞＜=パラメータ2＞＜,パラメータ3＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　i・ナンバー情報（1、2または3）

＜パラメータ2＞　電話番号

＜パラメータ3＞　内線指定番号

入力例：　AT＊PN1=0312345678,9999

＊PRA

機能：　電話Aポートに、着信用 i・ナンバー情報を設定します。

書式：　AT＊PRA＝＜パラメータ1＞＜,パラメータ2＞＜,パラメータ3＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　i・ナンバー情報（1、2または3）

＜パラメータ2＞　i・ナンバー情報（1、2または3）

＜パラメータ3＞　i・ナンバー情報（1、2または3）

入力例：　AT＊PRA=1,2,3

補足：　初期値は1です。

＊PRB

機能：　電話Bポートに、着信用 i・ナンバー情報を設定します。

書式：　AT＊PRB＝＜パラメータ1＞＜,パラメータ2＞＜,パラメータ3＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　i・ナンバー情報（1、2または3）

＜パラメータ2＞　i・ナンバー情報（1、2または3）

＜パラメータ3＞　i・ナンバー情報（1、2または3）

入力例：　AT＊PRB=1,2,3

補足：　初期値は2です。

＊PRC

機能：　電話Cポートに、着信用 i･ナンバー情報を設定します。

書式：　AT＊PRC＝＜パラメータ1＞＜,パラメータ2＞＜,パラメータ3＞

パラメータ：
＜パラメータ1＞　i･ナンバー情報（1、2または3）
＜パラメータ2＞　i･ナンバー情報（1、2または3）
＜パラメータ3＞　i･ナンバー情報（1、2または3）

入力例：　AT＊PRC=1,2,3

補足：　初期値は3です。

＊PRN

機能：　着信用 i･ナンバー情報を設定します。

書式：　AT＊PRN＝＜パラメータ1＞＜,パラメータ2＞＜,パラメータ3＞

パラメータ：
＜パラメータ1＞　i･ナンバー情報（1、2または3）
＜パラメータ2＞　i･ナンバー情報（1、2または3）
＜パラメータ3＞　i･ナンバー情報（1、2または3）

入力例：　AT＊PRN=1,2,3

補足：
- 初期値は1です。
- 本コマンドを出したデータポート（シリアルポート/USBポート）の設定のみ変更されます。

＊PRNJ

機能：　シリアルポートに、着信用 i・ナンバー情報を設定します。

書式：　AT＊PRNJ=＜パラメータ1＞＜,パラメータ2＞＜,パラメータ3＞

パラメータ：
＜パラメータ1＞　i・ナンバー情報（1、2または3）
＜パラメータ2＞　i・ナンバー情報（1、2または3）
＜パラメータ3＞　i・ナンバー情報（1、2または3）

入力例：　AT＊PRNJ=1,2,3

補足：　初期値は1です。

＊PRNK

機能：　USBポートに、着信用 i・ナンバー情報を設定します。

書式：　AT＊PRNK=＜パラメータ1＞＜,パラメータ2＞＜,パラメータ3＞

パラメータ：
＜パラメータ1＞　i・ナンバー情報（1、2または3）
＜パラメータ2＞　i・ナンバー情報（1、2または3）
＜パラメータ3＞　i・ナンバー情報（1、2または3）

入力例：　AT＊PRNK=1,2,3

補足：　初期値は1です。

＊PX1

機能：　i・ナンバーを使用するかどうかを設定します。

書式：　AT＊PX1＝<パラメータ1>

パラメータ：　<パラメータ1>　0　：　使用しない（初期値）

　　　　　　　　　　　　1　：　使用する

入力例：　AT＊PX1=1

＊P？

機能：　i・ナンバーに関する設定内容を表示します。

書式：　AT＊P?

入力例：　AT＊P?

＊Z

機能：　着信番号（電話番号）と内線指定番号を最大8個まで登録します。

書式：　AT＊Z<パラメータ1><＝パラメータ2><,パラメータ3>

パラメータ：　<パラメータ1>　0～7：テーブル番号

　　　　　　<パラメータ2>　着信番号（最大32桁）

　　　　　　<パラメータ3>　内線指定番号（4桁）

入力例：　AT＊Z1＝1234567890,1111

補足：
- 着信番号には0～9の数字が利用できます。
- 内線指定番号は、「モデム・ダイヤルイン」「アナログ・ダイヤルイン」設定時のみに使用します。4桁で0～9の数字が利用できます。
- 本コマンドは、「i・ナンバーを使用しない」場合に有効です。

＊ZA

機能：　電話Aポートに、＊Zコマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。

書式：　AT＊ZA＝＜パラメータ1＞～＜, パラメータ8＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞～＜, パラメータ8＞：0～7
（＊Zコマンドで登録したテーブル番号）

入力例：　AT＊ZA＝0, 2, 3, 7

補足：
① 1つのポートに最大8つまで割り当てることができます。
② 本コマンドで登録された番号で着信判定を行います。
③ 本コマンドは、「i・ナンバーを使用しない」場合に有効です。
④ 内線指定番号は、「モデム・ダイヤルイン」「アナログ・ダイヤルイン」設定時のみに使用します。

＊ZB

機能：　電話Bポートに、＊Zコマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。

書式：　AT＊ZB＝＜パラメータ1＞～＜, パラメータ8＞

パラメータ：　＊ZAコマンドと同じ

入力例：　AT＊ZB＝0, 2, 3, 7

補足：　＊ZAコマンドの補足を参照してください。

＊ZC

機能：　電話Cポートに、＊Zコマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。
書式：　AT＊ZC＝<パラメータ1>～<, パラメータ8>
パラメータ：　＊ZAコマンドと同じ
入力例：　AT＊ZC＝0, 2, 3, 7
補足：　＊ZAコマンドの補足の①～③を参照してください。

＊ZD

機能：　＊Zコマンドで登録した着信番号を割り当てます。
書式：　AT＊ZD＝<パラメータ1>～<, パラメータ8>
パラメータ：　＊ZAコマンドと同じ
入力例：　AT＊ZD＝0, 2, 3, 7
補足：
① 本コマンドを出したデータポート（シリアルポート/USBポート）の設定のみ変更されます。
② 内線指定番号は無視されます。
③ ＊ZAコマンドの補足を参照してください。

＊ZDJ

機能:　シリアルポートに、＊Zコマンドで登録した着信番号を割り当てます。

書式:　AT＊ZDJ=＜パラメータ1＞～＜,パラメータ8＞

パラメータ:　＊ZAコマンドと同じ

入力例:　AT＊ZDJ=0,1,7,2,6

補足:　＊ZDコマンドの補足の②～③項を参照してください。

＊ZDK

機能:　USBポートに、＊Zコマンドで登録した着信番号を割り当てます。

書式:　AT＊ZDK=＜パラメータ1＞～＜,パラメータ8＞

パラメータ:　＊ZAコマンドと同じ

入力例:　AT＊ZDK=1,3,4,6

補足:　＊ZDコマンドの補足の②～③項を参照してください。

¥C

機能:　データポート(シリアルポート/USBポート)、アナログポート(電話Aポート/電話Bポート/電話Cポート)の累積通信料金の表示と初期化を行います。

書式:　AT\C＜パラメータ1＞

パラメータ:　＜パラメータ1＞
- 0　:　累積通信料金を表示する
- 1　:　累積通信料金を初期化(0円)する

入力例:　AT\C0

¥D

機能：　UUIメール着信時のMsgランプ表示の設定と設定内容の表示を行います。

書式：　AT\D＜パラメータ1＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　0　：　設定内容の表示

1　：　ランプ点灯選択

1＝0　：　UUIメール着信でランプ点灯しない

1＝1　：　UUIメール着信でランプ点灯する（初期値）

入力例：　AT\D1＝0

¥L

機能：　データポート（シリアルポート/USBポート）、アナログポート（電話Aポート/電話Bポート/電話Cポート）の最新発信・着信番号や、着信しなかった理由を表示します。

書式：　AT\L＜パラメータ1＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　0　：　最新の発信番号を表示

1　：　最新の着信番号、切断理由、診断情報を表示

入力例：　AT\L1

補足：
- SEND CAUSE＝切断理由、DIAGNOSIS＝診断情報です。
- データがない場合は、BUFFER EMPTYを表示します。

￥M

機能:　電子メール着信時のMsgランプ表示の設定と設定内容の表示を行います。

書式:　AT\M<パラメータ1><＝パラメータ2>

パラメータ:　<パラメータ1><＝パラメータ2>

- 0　:　設定内容の表示
- 1　:　ランプ点灯選択
  - 1＝0　:　電子メール着信でランプ点灯しない
  - 1＝1　:　電子メール着信でランプ点灯する（初期値）

入力例:　AT\M1＝0

￥Q

機能:　フロー制御方式の設定を行います。

書式:　AT\Q<パラメータ1>

パラメータ:　<パラメータ1>

- 0　:　フロー制御なし
- 1　:　XON/XOFFフロー制御
- 2　:　CSフロー制御
- 3　:　RS-CSフロー制御（初期値）

入力例:　AT\Q0

¥S

機能：　データポート（シリアルポート/USBポート）の設定値、Sレジスタ値、ATコマンド状態を表示します。

書式：　AT\S＜パラメータ1＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞

0	：	データポート速度、データフォーマット、フロー制御方式、エコー指定、非同期／同期PPPモード、回線状態、信号制御、信号線状態を表示
1	：	Sレジスタの内容をSレジスタ名とともに表示
2	：	リザルトコード有無、リザルトコードフォーマット、リザルトコードRING表示、リザルトコードセットの状態を表示
3	：	Sレジスタの内容を表示

入力例：　AT\S0

補足：　本コマンドを出したデータポート（シリアルポート/USBポート）の設定のみ変更されます。

\SJ

機能：　シリアルポートの設定値、Sレジスタ値、ATコマンド状態を表示します。

書式：　AT\SJ＜パラメータ1＞

パラメータ：　\Sコマンドと同じ

入力例：　AT\SJ1

\SK

機能：　USBポートの設定値、Sレジスタ値、ATコマンド状態を表示します。

書式：　AT\SK＜パラメータ1＞

パラメータ：　\Sコマンドと同じ

入力例：　AT\SK0

先頭ページへ　コマンド一覧へ　前ページへ　次ページへ

＄A

機能:　電話Aポートの設定と表示を行います。

書式:　AT＄A<パラメータ1><＝パラメータ2>

パラメータ:　<パラメータ1><＝パラメータ2>

0　：設定内容の表示

1　：接続した機器の種類

1＝0　：　電話機（初期値）

1＝1　：　ファクス（ファクス付き電話機）またはモデム

1＝2　：　接続しない（使用しない）

2　：キャッチホン

2＝0　：　使用しない（初期値）

2＝1　：　INSキャッチホン

2＝2　：　疑似キャッチホン

3　：識別着信（セキュリティ＋選択キャッチホン）設定

3＝0　：　使用しない（初期値）

3＝1　：　INSなりわけ識別着信

3＝2　：　（疑似）識別着信

3＝3　：　INSなりわけ選択キャッチホン

3＝4　：　疑似選択キャッチホン

4　：HLC（高位レイヤ整合性）設定

4＝0　：　設定しない（初期値）

4＝1　：　HLCを設定し、着信判定する

4＝2　：　HLCを設定するが、着信判定しない

5　：グローバル着信
　5＝0　：　着信する（初期値）
　5＝1　：　着信しない
6　：サブアドレスなし着信選択
　6＝0　：　着信する（初期値）
　6＝1　：　着信しない
7　：ダイヤル桁間タイマ設定
　7＝0　：　5秒（初期値）
　7＝1　：　9秒
　7＝2　：　11秒
　7＝3　：　13秒
8　：フッキング検出タイマ設定
　8＝0　：　0.03秒～1秒
　8＝1　：　0.3秒～1秒（初期値）
　8＝2　：　0.5秒～1.5秒
9　：発信者番号通知設定
　9＝0　：　発信者番号通知しない
　9＝1　：　発信者番号通知する
　9＝2　：　INSネット64申込内容に従う（初期値）
10　：受話音量の設定
　10＝0　：　小音
　10＝1　：　中音（初期値）
　10＝2　：　大音

11　：情報通知サービス設定
　11＝0　：　使用しない（初期値）
　11＝1　：　ナンバー・ディスプレイを使用する
　11＝2　：　モデム・ダイヤルインを使用する
　11＝3　：　アナログ・ダイヤルインを使用する
　11＝4　：　ナンバー・ディスプレイとモデム・ダイヤルインを使用する

12　：情報通知サービス（サブアドレス）設定
　12＝0　：　サブアドレスをつけない（初期値）
　12＝1　：　サブアドレスをつける

13　：リバースパルス送出設定
　13＝0　：　送出しない（初期値）
　13＝1　：　送出する

14　：通話中の受話音量変更
　14＝0　：　＊#入力しても受話音量は変更しない（初期値）
　14＝1　：　＊#入力で受話音量を変更する

15　：識別リンギング設定
　15＝0　：　使用しない（初期値）
　15＝1　：　INSなりわけ
　15＝2　：　疑似なりわけ

16　：CTIモード設定
　16＝0　：　使用しない（初期値）
　16＝1　：　使用する

17　：内線呼出信号選択

17＝0　：　通常着信音（初期値）

17＝1　：　SIR着信音

18　：キャッチホン・ディスプレイ

18＝0　：　使用しない（初期値）

18＝1　：　使用する

入力例：　AT＄A3＝1

補足：
- HLCを設定した場合、電話を選択していればHLCは「電話」にファクス（ファクス付き電話機）やモデムを選択していれば「G2/G3ファクス」に自動的に設定します。
- 12「情報通知サービス（サブアドレス）」は11「情報通知サービス」を「1」「2」「4」に設定したときに利用できます。
- （11＝0）のときは12の設定は動作に関係しません。

＄B

機能：　電話Bポートの設定と表示を行います。

書式：　AT＄B＜パラメータ1＞＜＝パラメータ2＞

パラメータ：　＄Aコマンドと同じ

入力例：　AT＄B4＝1

補足：　＄Aコマンドの補足を参照してください。

＄C

機能：　電話Cポートの設定と表示を行います。

書式：　AT$C<パラメータ1><=パラメータ2>

パラメータ：　＄Aコマンドと同じですが、11「情報通知サービス」、12「情報通知サービス（サブアドレス）」と18「キャッチホン・ディスプレイ」は使用できません。電話Aポートと電話Bポートでご使用ください。

入力例：　AT＄C4＝1

補足：　HLCを設定した場合、電話を選択していればHLCは「電話」に、ファクスやモデムを選択していれば「G2/G3 FAX」に自動的に設定します。

$D

機能:　アナログポート(電話Aポート/電話Bポート/電話Cポート)の共通設定と表示を行います。

書式:　AT$D<パラメータ1><=パラメータ2>

パラメータ:　<パラメータ1><=パラメータ2>

0　：設定内容の表示

2　：停電時のリンガ制御(Aポートのみ)

- 2=0　：　着信ブザー
- 2=1　：　着信リンガ(初期値)
- 2=3　：　着信なし

3　：優先着信ポートの指定

- 3=0　：　優先なし(初期値)
- 3=1　：　電話Aポート優先
- 3=2　：　電話Bポート優先
- 3=3　：　電話Cポート優先

4　：内線通話・内線転送

- 4=0　：　使用しない
- 4=1　：　使用する(初期値)

5　：三者通話

- 5=0　：　使用しない(初期値)
- 5=1　：　三者通話
- 5=2　：　疑似三者通話

6　：通信中転送
- 6＝0　：　使用しない（初期値）
- 6＝1　：　使用する

7　：お出かけモード設定
- 7＝2　：　電話着信転送モード
- 7＝3　：　ボイスワープ転送モード
- 7＝4　：　フラッシュモード（初期値）

8　：ボイスワープ転送モード設定
- 8＝1　：　無条件転送（初期値）
- 8＝2　：　無応答時転送
- 8＝3　：　話中時転送
- 8＝4　：　無応答 or 話中時転送

9　：＃発信
- 9＝0　：　発信しない
- 9＝1　：　発信する（初期値）
- 9＝2　：　＃＃で発信する

入力例：　AT＄D3＝2

＄F

機能：　データポート（シリアルポート/USBポート）の共通設定と表示を行います。

書式：　AT＄F<パラメータ1><=パラメータ2>

パラメータ：　<パラメータ1><=パラメータ2>

0　：設定内容の表示

1　：優先着信ポートの設定

1=0　：　優先なし（初期値）
1=1　：　シリアルポート優先
1=2　：　USBポート優先

2　：応答平均化

2=0　：　使用しない（初期値）
2=1　：　使用する

3　：応答平均化時のマルチポイント接続端末数

3=1　：　1台（初期値）
3=2　：　2台
～　～
3=8　：　8台

入力例：　AT＄F1=2

補足：

- 3（マルチポイント接続端末数）は、2（応答平均化機能）を「1」に設定したとき（2=1）には必ず設定してください。
- 3には同一回線に接続されているAtermの数を設定してください。
- 2=0のときは、3の設定値は無効になります。

$H

機能：　アナログポートの着信転送元、着信転送先の電話番号またはメールアドレス、着信転送、識別着信転送の設定状態を表示します。

書式：　AT$H

パラメータ：　なし

入力例：　AT$H

補足：
- 着信転送元の電話番号とサブアドレスの間はサブアドレスセパレータで区切られます。
- 登録されていない場合、BUFFER EMPTYを表示します。

$M

機能：　128kbpsマルチリンクPPP通信の設定と表示を行います。

書式：　AT$M<パラメータ1><=パラメータ2>

パラメータ：　<パラメータ1><=パラメータ2>

0　：設定内容の表示

1　：128kbpsマルチリンクPPP通信
　1=0　：　使用しない（初期値）
　1=1　：　使用する

2　：リソースBOD
　2=0　：　行わない（初期値）
　2=1　：　行う

3　：スループットBOD
　3=0　：　使用しない（初期値）
　3=1　：　使用する

4　：リンク追加算出時間（10秒単位）
4＝0、10～60（秒）（初期値30秒）
5　：リンク削除算出時間（10秒単位）
5＝0、10～60（秒）（初期値10秒）
6　：リンク追加しきい値設定（10%単位）
6＝0、60～90（%）（初期値70%）
7　：リンク削除しきい値設定（10%単位）
7＝0、10～40（%）（初期値20%）
8　：2本目接続時の認証
8＝0　：　認証しない
8＝1　：　認証する（初期値）

入力例：　AT＄M2＝1

補足：　① 本コマンドを出したデータポート（シリアルポート/USBポート）の設定のみ変更されます。
② ＄M1コマンドは、＄N11コマンドと同義のコマンドです。どちらかを設定すれば有効になります。
③ スループットBODの設定を“フレックスBOD”に設定できるのはUSBポートのみです。シリアルポートではERRORとなります。

＄MJ

機能：　シリアルポートの128kbpsマルチリンクPPP通信の設定と表示を行います。

書式：　AT＄MJ＜パラメータ1＞＜=パラメータ2＞

パラメータ：　＄Mコマンドと同じ

入力例：　AT＄MJ3=1

補足：　＄Mコマンドの補足の②～③項を参照してください。

＄MK

機能：　USBポートの128kbpsマルチリンクPPP通信の設定と表示を行います。
書式：　AT＄MK<パラメータ1><=パラメータ2>
パラメータ：　＄Mコマンドと同じ。
入力例：　AT＄MK4=30
補足：　＄Mコマンドの補足の②〜③項を参照してください。

＄N

機能：　データポート（シリアルポート/USBポート）制御に関する設定と表示を行います。
書式：　AT＄N<パラメータ1><=パラメータ2>
パラメータ：　<パラメータ1><＝パラメータ2>

0　：設定内容の表示
1　：非同期／同期PPP変換
　1＝0　：　使用しない（初期値）
　1＝1　：　使用する
　1＝2　：　PIAFS通信する
2　：識別着信
　2＝0　：　使用しない（初期値）
　2＝1　：　使用する
3　：HLC設定
　3＝N　：　設定しない（初期値）
　3＝0〜127

＄N（続き）

4　：着信速度チェック
　4＝0　：　使用しない（初期値）
　4＝1　：　使用する
5　：グローバル着信選択
　5＝0　：　着信する（初期値）
　5＝1　：　着信しない
6　：サブアドレスなし着信選択
　6＝0　：　着信する（初期値）
　6＝1　：　着信しない
9　：無通信監視タイマ
　9＝0　：　監視しない
　9＝1　：　1分
　　≀　　　≀
　9＝10：　10分（初期値）
10　：スティルスコールバック
　10＝0：　使用しない（初期値）
　10＝1：　使用する
11　：128kbpsマルチリンクPPP通信
　11＝0：　使用しない（初期値）
　11＝1：　使用する

＄Ｎ（続き）

12　　：発信者番号通知
　12＝0：　通知しない
　12＝1：　通知する
　12＝2：　INSネット64の申込内容に従う（初期値）
13　　：64KPPP、MP時のPPP ACCM付加選択
　13＝0：　付加しない
　13＝1：　付加する（初期値）
14　　：強制切断タイマ
　14＝0：　使用しない
　14＝1：　1時間で切断する
　　　≀　　　≀
　14＝10：10時間で切断する（初期値）
15　　：PIAFS速度設定
　15＝0：　32kbps（PIAFS 2.0／初期値）
　15＝1：　64kbps（PIAFS 2.0）
　15＝2：　64kbps（PIAFS 2.1）

入力例：　AT＄N9＝2

補足：
① 本コマンドを出したデータポート（シリアルポート/USBポート）の設定のみ変更されます。
② 4（着信速度チェック）で「使用しない」（4＝0）に設定すると異速度通信を行う動作になります。
③ ＄N1＝0、＄N1＝2の設定は#Mコマンドでもできます。どちらかを設定すれば有効になります。
④ ＄N1=2のときの通信速度（32K/64K）は＄N15コマンドで設定します。

＄NJ

機能：　シリアルポートの制御に関する設定と表示を行います。
書式：　AT＄NJ＜パラメータ1＞＜=パラメータ2＞
パラメータ：　＄Nコマンドと同じ
入力例：　AT＄NJ3=1
補足：　＄Nコマンドの補足の②～④項を参照してください。

＄NK

機能：　USBポートの制御に関する設定と表示を行います。
書式：　AT＄NK＜パラメータ1＞＜=パラメータ2＞
パラメータ：　＄Nコマンドと同じ
入力例：　AT＄NK4=1
補足：　＄Nコマンドの補足の②～④項を参照してください。

＄S

機能：　ATコマンドで設定したパラメータや自動ボーレート検出したパソコンの速度を保存します。
書式：　AT＄S
パラメータ：　なし
入力例：　AT＄S
補足：　電話帳、通知番号、自己サブアドレス、着信番号、内線指定番号、着信転送先および転送元の電話番号等はそのつど保存されるので、本コマンドは必要ありません。

＄Ｘ

機能：　アナログポートの着信転送や選択着信転送の種類を設定します。

書式：　AT＄Ｘ＜パラメータ1＞＜＝パラメータ2＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞＜パラメータ2＞

0　：　着信転送の種類の設定
- 0＝1　：　着信転送
- 0＝2　：　疑似着信転送（初期値）
- 0＝3　：　電話番号着信転送（遊遊メール利用）

1　：　選択着信転送の種類の設定
- 1＝0　：　無条件転送（初期値）
- 1＝1　：　INSなりわけ時転送
- 1＝2　：　識別着信時転送

入力例：　AT＄Ｘ0＝1

補足：　本コマンドとあわせて、＄Ｙ、＄ＹＭ、＄Ｚコマンドを設定してください。

＄Y

機能：　アナログポートの着信転送先の電話番号を登録します。

書式：　AT＄Y＜パラメータ1＞＜＝パラメータ2＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　0　：　着信転送先（0）に設定する
　1　：　着信転送先（1）に設定する
　2　：　着信転送先（2）に設定する

＜パラメータ2＞　転送先電話番号（32桁）

入力例：　AT＄Y0=0123456789

補足：
- 本コマンドとあわせて、＄Zコマンドで転送元を設定してください。
- 転送先電話番号には0〜9の数字が使用できます。
- 転送先の設定は電話番号だけです。サブアドレスは設定できません。

＄YM

機能：　電話番号着信転送（遊遊メール利用）を行う際の、転送先のメールアドレスを登録します。

書式：　AT＄YM＜パラメータ1＞＜＝パラメータ2＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　0　：　着信転送先（0）に設定する
　1　：　着信転送先（1）に設定する
　2　：　着信転送先（2）に設定する

＜パラメータ2＞　転送先メールアドレス（半角英数字、記号）

入力例：　AT＄YM0＝abc@def.ghi.co.jp

補足：
- 本コマンドとあわせて、＄Zコマンドで転送元を設定してください。
- 転送先メールアドレスは半角で最大40文字まで設定できます。

＄Ｚ

機能：　アナログポートの着信転送元の電話番号を登録します。

書式：　AT＄Z＜パラメータ1＞＜＝パラメータ2＞＜/パラメータ3＞

パラメータ：

＜パラメータ1＞
- 0　：　着信転送元（0）に設定する
- 1　：　着信転送元（1）に設定する
- 2　：　着信転送元（2）に設定する
- 5　：　トーキあり／なしの設定

＜パラメータ2＞　転送元電話番号（最大32桁）

次はパラメータ1が5のときに使用
- 0　：　両トーキなし
- 1　：　転送トーキあり、転送元トーキなし
- 2　：　転送トーキなし、転送元トーキあり
- 3　：　両トーキあり（初期値）

＜パラメータ3＞　転送元サブアドレス（最大19桁）

入力例：

AT＄Z0＝9876543210

AT＄Z5＝0

補足：
- 本コマンドとあわせて、＊Zコマンドで着信番号を設定してください。
- 本コマンドとあわせて、＄Yコマンドまたは＄YMコマンドで転送先を設定してください。
- 転送元電話番号および転送元サブアドレスには最大32桁の0～9の数字が使用できます。
- /以降が省略された場合は転送元サブアドレス指定なしとみなします。
- /は/Sコマンドで変更できます。
- トーキの設定は＄Xコマンド「着信転送」に設定したときに利用できます。
- トーキの設定は電話番号ごとに設定することはできません。

%C

機能:　PIAFSによるデータ通信時のデータ圧縮を行うか否かの設定をします。

書式:　AT%C<パラメータ1>

パラメータ:　<パラメータ1>　0　:　圧縮なし
　2　:　V.42bisデータ圧縮あり（初期値）
　?:　本データ圧縮の設定内容を表示

入力例:　AT%C0

S

機能:　Sレジスタポインタを指定します。

書式:　ATS<パラメータ1>

パラメータ:　<パラメータ1>　0〜26:Sレジスタ

入力例:　ATS0

補足:　初期値は0です。

Sレジスタへ

?

機能:　現在のSレジスタポインタの示すレジスタ内容を表示します。

書式:　AT?

パラメータ:　なし

入力例:　AT?

補足:　Sコマンドと続けることができます。
例）ATS0＋AT?→ATS0?

=

機能:　現在のSレジスタポインタの示すレジスタ内容を変更します。

書式:　AT＝<パラメータ1>

パラメータ:　<パラメータ1>設定値

入力例:　AT＝

補足:　Sコマンドと続けることができます。
例)ATS0＋AT＝2→ATS0＝2

＋＋＋

機能:　データ通信中につながっている回線を切らずにコマンドモードへ戻し、コマンドを入力することができます。

書式:　+++

パラメータ:　なし

入力例:　+++

!C

機能:　CTI発信をキャンセルします。

書式:　AT!C<パラメータ1>

パラメータ:　<パラメータ1>　アナログポート番号

1	:	電話Aポート
2	:	電話Bポート
3	:	電話Cポート

入力例:　AT!C1

!D

機能: アナログポートから指定した相手アドレスに発信します。

書式: AT!D<パラメータ1><;パラメータ2></パラメータ3>

パラメータ: <パラメータ1> アナログポート番号

1 : 電話Aポート

2 : 電話Bポート

3 : 電話Cポート

<パラメータ2> 相手アドレス

<パラメータ3> 相手サブアドレス

入力例: AT!D1;0312345678/123

補足:
- 相手アドレスは最大で32桁で0～9の数字が使用できます。
- 相手サブアドレスは最大19桁で0～9の数字が使用できます。/以降が省略された場合は相手サブアドレス指定なしとみなします。

!H

機能: マイプライベート着信用電話帳の登録情報を表示します。

書式: AT!H

パラメータ: なし

入力例: AT!H

補足: 登録されていない場合、BUFFER EMPTYを表示します。

!SH

機能：　疑似識別着信（セキュリティ＋選択キャッチホン）用電話帳の登録情報を表示します。
書式：　AT!SH
パラメータ：　なし
入力例：　AT!SH

!SZ

機能：　疑似識別着信（セキュリティ＋選択キャッチホン）に電話番号を登録します。
書式：　AT!SZ＜パラメータ1＞＝＜パラメータ2＞＜/パラメータ3＞
パラメータ：　＜パラメータ1＞　0～29（最大30件登録できます）
＜パラメータ2＞　相手電話番号（最大32桁）
＜パラメータ3＞　相手サブアドレス（最大19桁）
入力例：　AT!SZ0＝1234567890/123
補足：
- 相手サブアドレスだけを登録しようとした場合はERRORを返します。
- 相手電話番号および相手サブアドレスには0～9の数字が使用できます。

!UC

機能：　迷惑電話防止用電話帳に登録されている電話番号を削除します。
書式：　AT!UC＝＜パラメータ1＞
パラメータ：　＜パラメータ1＞電話番号、P、C、O（P：非通知 C：公衆電話 O：表示圏外）
入力例：　AT!UC＝1234567890
補足：
- 入力された電話番号が全桁一致した場合にだけ、登録は削除されます。
- 一致しない場合は、ERRORを表示します。

!UH

機能：　迷惑電話防止用電話帳の情報を表示します。
書式：　AT!UH
パラメータ：　なし
入力例：　AT!UH
補足：　1件も登録されていない場合はBUFFER EMPTYを表示します。

!US

機能：　迷惑電話防止用電話番号を登録します。
書式：　AT!US＝＜パラメータ1＞
パラメータ：　＜パラメータ1＞電話番号(最大15桁)、P、C、O(P:非通知 C:公衆電話 O:表示圏外)
入力例：　AT!US＝1234567890
補足：
- 既に登録されている電話番号を再入力した場合はAlready existを表示しデータを更新しません。
- 登録件数は最大20件までです。
- 電話番号には0～9の数字が使用できます。
- サブアドレスは登録できません。

!VH

機能：　INSボイスワープ設定用電話番号を表示します。
書式：　AT!VH
パラメータ：　なし
入力例：　AT!VH
補足：　登録されていない場合はBUFFER EMPTYを表示します。

!VZ

機能：　INSボイスワープ設定用電話番号を登録します。
書式：　AT!VZ＜パラメータ1＞＝＜パラメータ2＞
パラメータ：　＜パラメータ1＞　ボイスワープ番号（0～4、9）
　＜パラメータ2＞　設定電話番号または契約電話番号（契約電話番号は最大32桁）
入力例：　AT!VZ0＝1420
補足：　設定電話番号には初期値のデータがあります。

!WH

機能：　疑似なりわけの相手の電話番号を表示します。
書式：　AT!WH
パラメータ：　なし
入力例：　AT!WH
補足：　登録されていない場合はBUFFER EMPTYを表示します。

!WZ

機能：　疑似なりわけの相手の電話番号を登録します。
書式：　AT!WZ＜パラメータ1＞＝＜パラメータ2＞＜/パラメータ3＞
パラメータ：　＜パラメータ1＞　0～29（最大30件登録できます）
　＜パラメータ2＞　相手電話番号（最大32桁）
　＜パラメータ3＞　相手サブアドレス（最大19桁）
入力例：　AT!WZ0＝1234567890/123
補足：
・サブアドレスだけを登録しようとした場合はERRORが返されます。
・相手電話番号および相手サブアドレスには0～9の数字が使用できます。

!X

機能： マイプライベート着信の設定をします。

書式： AT!X0＝＜パラメータ1＞

パラメータ： ＜パラメータ1＞　0　：　使用しない（初期値）
　1　：　使用する

入力例： AT!X0＝1

!Z

機能： マイプライベート着信する相手電話番号と着信するポートを設定します。

書式： AT!Z＜パラメータ1＞＜＝パラメータ2＞＜/パラメータ3＞＜;パラメータ4＞

パラメータ：
＜パラメータ1＞　0～29（最大30件まで登録できます）
＜パラメータ2＞　相手電話番号（最大32桁）、P、C、O（P：非通知、C：公衆電話、O：表示圏外）
＜パラメータ3＞　相手サブアドレス（最大19桁）
＜パラメータ4＞　A、B、C：着信ポート番号

入力例： AT!Z0＝1234567890/123;A, B, C

補足：
- サブアドレスおよび着信ポートだけを登録しようとした場合はERRORが返されます。
- 相手電話番号および相手サブアドレスには0～9の数字が使用できます。

レジスタ番号	内 容	範 囲	単 位	意 味	初期値
0	自動応答	0	回	自動応答しない	1
		1〜255		設定値の数だけ“ RING ”を送出後、自動応答する	
1	RING送出回数表示	0〜255	回	“ RING ”を送出した回数を表示する	0
2	エスケープ文字	0	ASCII	エスケープ文字なし	43
		1〜127		設定した文字をエスケープキャラクタとする	(+)
3	復帰文字	0〜127	ASCII	設定した文字を復帰文字とする	13(CR)
4	改行文字	0〜127	ASCII	設定した文字を改行文字とする	10(LF)
5	後退文字	0〜32, 127	ASCII	設定した文字を後退文字とする	8(BS)
7	接続時間監視	1〜50	秒	発信時、設定時間以内に応答がない場合は切断する	30
26	CS遅延時間(注1)	0〜100	(注2)	RS信号がOFFからONになったとき、設定だけCS信号を遅延させてONにする	0
その他	サポートしない				

注意!

- CS遅延時間はフロー制御なしに設定したときのみ有効です。
- CS遅延時間S26に設定した値とCS遅延時間の関係を示します。「AUTO」は、設定した速度の24ビット分、他の設定値「10ミリ秒」〜「100ミリ秒」は設定した速度の24ビット分にその設定値を足した時間になります。

S26値	CS遅延時間
0	AUTO(0ミリ秒)
10	10ミリ秒
20	20ミリ秒
30	30ミリ秒
40	40ミリ秒
50	50ミリ秒
80	80ミリ秒
100	100ミリ秒

先頭ページへ　Sコマンドへ　前ページへ　次ページへ

リザルトコード一覧

数字	英語	内容
0	OK	コマンド正常終了
1	CONNECT	相手端末との接続完了
2	RING	着信通知
3	NO CARRIER	回線切断
4	ERROR	不正コマンド
5	CONNECT1200	1200bpsで接続完了
7	BUSY	相手通信中
10	CONNECT2400	2400bpsで接続完了
11	CONNECT4800	4800bpsで接続完了
12	CONNECT9600	9600bpsで接続完了
13	CONNECT14400	14400bpsで接続完了
14	CONNECT19200	19200bpsで接続完了
18	CONNECT57600	57600bpsで接続完了
19	CONNECT64000	64000bpsで接続完了
21	CONNECT32000	32000bpsで接続完了
26	CONNECT28800	28800bpsで接続完了
28	CONNECT38400	38400bpsで接続完了
67	COMPRESSION:V.42bis	V.42bis圧縮モードで接続完了
69	COMPRESSION:NONE	V.42bis圧縮モードなしで接続完了
82	PROTOCOL:PIAFS	プロトコルPIAFSで接続完了

BUSY

機能：　相手話中のため接続に失敗したときに送出します。
書式：　BUSY
出力例：　BUSY

OK

機能：　コマンド正常終了
次の条件の時に送出します。
（1）コマンドが正常であったとき（A、D、Oコマンド実行時はなし）
（2）エスケープコマンド入力後オンラインコマンドモードに入るとき
（3）オンラインコマンドモード時にATHコマンドが入力され通信が切断されたとき
書式：　OK
出力例：　OK

CONNECT

機能：	相手と通信状態になったときに送出します。		
書式：	CONNECT<パラメータ1>		
パラメータ：	<パラメータ1>	なし：	相手と通信状態になりました（ベーシックリザルトコードセットのみ）
		1200：	回線速度が1200bpsで接続完了しました
		2400：	回線速度が2400bpsで接続完了しました
		4800：	回線速度が4800bpsで接続完了しました
		9600：	回線速度が9600bpsで接続完了しました
		14400：	回線速度が14400bpsで接続完了しました
		19200：	回線速度が19200bpsで接続完了しました
		28800：	回線速度が28800bpsで接続完了しました
		32000：	回線速度が32000bpsで接続完了しました
		38400：	回線速度が38400bpsで接続完了しました
		57600：	回線速度が57600bpsで接続完了しました
		64000：	回線速度が64000bpsで接続完了しました
出力例：	CONNECT38400		

RING

機能：　着信があった場合、応答するまで2秒間隔で送出します。

書式：　RING＜パラメータ1＞＜/パラメータ2＞＜[パラメータ3＞

パラメータ：　＜パラメータ1＞　発信側のアドレス

＜パラメータ2＞　発信側のサブアドレス

＜パラメータ3＞　ユーザ・ユーザデータ

出力例：　RING

補足：　発信側のアドレス以降を付加させるにはWコマンドで指定します。

NO CARRIER

機能：　通信相手との接続に失敗したときに送出します。

また、通信中なんらかの原因で切断した場合も送出します。

書式：　NO CARRIER

パラメータ：　なし

出力例：　NO CARRIER

ERROR

機能：　次の条件のときに送出します。
（1）不正なコマンドが入力されたとき
（2）コマンド入力が最大文字数(184文字)を超えたとき
（3）Dコマンドで短縮番号を指定して発信しようとしたときに、短縮番号に電話番号が登録されていなかったとき
（4）パソコンのER信号がOFFで発信したとき
（5）アナログポートを使用しているときに$A、$B、$C、$Dコマンドで設定しようとしたとき
（6）コマンドで設定や登録をしようとしているポートが使用中のとき

書式：　ERROR

出力例：　ERROR

COMPRESSION:NONE

機能：　PIAFS通信の圧縮なしで接続したときに送出します。

書式：　COMPRESSION:NONE

出力例：　CONNECT 32000 PROTOCOL:PIAFS COMPRESSION:NONE

補足：　PIAFS通信で接続したときだけ表示します。

PROTOCOL:PIAFS

機能: PIAFS通信で接続したときに送出します。
書式: PROTOCOL:PIAFS
出力例: CONNECT 32000 PROTOCOL:PIAFS COMPRESSION:NONE
補足: PIAFS通信で接続したときだけ表示します。

COMPRESSION:V.42bis

機能: PIAFS通信のV.42bisデータ圧縮で接続したときに送出します。
書式: COMPRESSION:V.42bis
出力例: CONNECT 32000 PROTOCOL:PIAFS COMPRESSION:V.42bis
補足: PIAFS通信で接続したときだけ表示します。